

留学先国名 : カナダ

留学先学校名 : Langara College 大学

留学期間 : 平成 26 年 5 月 25 日 ~ 平成 28 年 4 月 22 日

留学から約 2 年たった今思うことは、2 年前の自分の海外の大学へ行くという決断は、正解だったということです。自分の見る景色が、行く前に比べ随分違います。

まず日本から離れたことで、日本の本当の良いところ、好きなところ、また、改善が必要なところが客観的な視点で分析できるようになりました。留学してからこれまで、“日本は怎なの？”といった日本に関する質問に答える機会が無数にありました。聞かれるたびに、自分の中での考えや、答え、また説明の仕方が変わっていくことに気づきました。たとえば、私は教育学を専攻しているので、日本の教育はどういうシステムをとっているのかという質問をたびたびされました。留学当初は、私の受けてきた日本の公立の初等教育から高等教育までは詰め込み式教育で、レクチャー式が一般的だと答えていました。私個人の意見は、そういった日本教育の在り方に疑問を持ってカナダで教育学を学びに来たというアバウトなものでした。何度も同じような質問を違う人からされ、答えては意見をもらうというのを続けている過程で、私自身の中で、日本の問題はどこが起点なのか、どういふ改善が迅速で根本的な解決につながるのかというように、より深くより現実的に考えるようになりました。留学当初は、そんな日本教育を受けてきたことを不満に思っていたこともありましたが、今は、逆にそのおかげで、違和感を覚え、問題提起ができたので、ここに来たし、来られたという、きっかけとしてポジティブにとらえることができます。トピックが教育でなくとも政治であれ、経済であれ、日本には日本なりの改善点があり、カナダではカナダの問題があると実感した場面が多々ありました。

カナダに来たことで、言語学習に対する意識が変わりました。インターナショナルの学校に高校 1 年生の後半からいたので、日本にいた時から、一般の日本人の人に比べると、英語が話せました。英語を話しているところを見られたり教えたりしている際に、周りにいた人に、英語を話せることを褒めてもらえる機会が多々あり、正直その程度の言語能力で日本では通用するを感じていました。少なくともその時点では、自分のテリトリー内に、上を目指そうと思う理由がありませんでした。当たり前ですが、カナダに来たら、周りはネイティブばかりで、ネイティブの人たちと一緒に授業を受けます。カナダでは授業中にディスカッションの時間を半分くらいとるので、ネイティブの人たちと話し合います。当たり前かもしれませんがネイティブの人に比べるとどうしても、ボキャブラリーの幅などで自分の英語力に限界を感じました。もっとがんばらないといけないという状況に来てはじめて、自分の目指す位置が高くなり、モチベーションになりました。またカナダでは、第二言語がフランス語のため、多くのカナダ人は、英語、フランス語が流暢に話せます。日本人の英語力とは違い、フランス語がちょっとできるというレベルではなく、英語フランス語両方ともネイティブなみに話す人が多くいます。また、カナダは移民を寛大に受け入れているため、言語を 3 種 4 種話せる人も少なくありません。よってバイリンガルは決してすごいこととはとらえられません。カナダに来てから私自身フランス語を勉

強しています。たとえもし日本に帰ることになったとしても、カナダでのニーズや水準を体験したので、自分の言語力に満足することなく、高い意識をもって言語学習に取り組めると確信しています。

これらの経験は、ずっと私の中で生きていくと思います。カナダで働くのか、日本で働くのか、それとも別の国に行くのかはまだ確定していませんが、どこにいても、今回の留学で得た経験や価値観を自分の基準として持っていきたいと思います。日本の固定概念を超えた場所で住めたことで、色んな気づきがあり、適応していくことを学びました。家族と物理的に頻繁に会えない環境で過ごすことで、本当の意味での自立、大人として生きることを体験しました。

留学という言葉をきくと、ポジティブなイメージを持つ人が多いかもしれません。海外で住んでみるだけで、価値観が変わると思っている人もいます。この留学を終えて個人的な留学の印象も肯定的なイメージです。いい人生経験だったように思います。ただ、そう思えるまでに時間がかかった時期もあったし、日本にいたら絶対起きなかった嫌なこともありました。嫌なことがあるたびに、海外にいるからということ言い訳にしまっていた時もありました。大事なのは場所じゃなく、自分が現実をどう受け取るか、どう対応するかということだと思います。日本に帰って、留学していますということと言うと、必ず返ってくる言葉が、「すごい。」「いいなあ。」という言葉です。留学体験記などによく見受けられるのは良い思い出が多いのでそういうリアクションをするのもわかります。でも、実際に留学しているものとして本音でいえることは、すごいのは、莫大なお金を投資してくれている親で、海外に住むことを応援してくれる姿勢を示してくれる日本にいる自分の大事な人たちです。いいなというほど、いいことばかりじゃないというのが本音です。海外にいるからこそ特有の劣等感を感じる瞬間に遭遇するし、留学したことを後悔する瞬間も少なからずあります。

留学に行きたい人は無限にいると思うしこれからどんどん需要は上がり、減ることはないと思います。留学できるチャンスが来たらすぐラッキーなことだと思います。チャンスはつかめるときにつかむべきだと思います。でも同時に、同じ大きさの苦労や、マイナスなことも引き受ける覚悟を持って、何が起きても揺るがない自分の意思を貫く意識が留学成功に必要なだと思います。予期せぬことが起こるのが留学でそれが己の成長につながると思います。いいこと悪いこと含めて今回の私の留学には意味があったと思うし、留学する機会を得たことに、今は感謝しています。